

# 地域景観の固有性を支える地区の細分化と 建築物の意匠特性

竹田市城下町地区における  
景観ガイドライン策定に関する研究 その2

大分大学理工学部創生工学科建築学コース  
建築・都市計画研究室  
2057415 後藤 大輝

# 1. 研究の背景

2004年に景観法が制定され、地域特性を反映した景観形成が推奨されている。

既往研究：景観ガイドラインが対象とする範囲を狭くすることで地域特性を反映した具体的な解説が記述されやすい<sup>1)</sup>

自治体は、景観特性に応じて、**地区の細分化**をすることが重要である

## 2. 研究の目的

大分県竹田市は1979年から**自主条例**に基づく景観整備・保全に努めてきた

竹田地区町並み形成景観・修景ガイドライン(1997年,以下,ガイドライン)には**地区の細分化の記載,建築物の意匠と歴史的背景**の関係は記載されていない

竹田城下町地区における土地利用の変遷から**歴史的背景を分析**することで

**①ガイドライン策定のための地区の細分化を行う**

竹田城下町地区の建築物の意匠を調査することで

**②歴史的背景と建築物の意匠の関係を明らかにする**

1)栗山尚子,三輪康一(2014.10)『景観行政における景観ガイドラインの実態と役割に関する研究』

日本都市計画学会都市計画論文集,vol.49,No.3 pp.741-746



### 3. 竹田城下町地区の細分化による地区の特性

本研究で使用した古地図

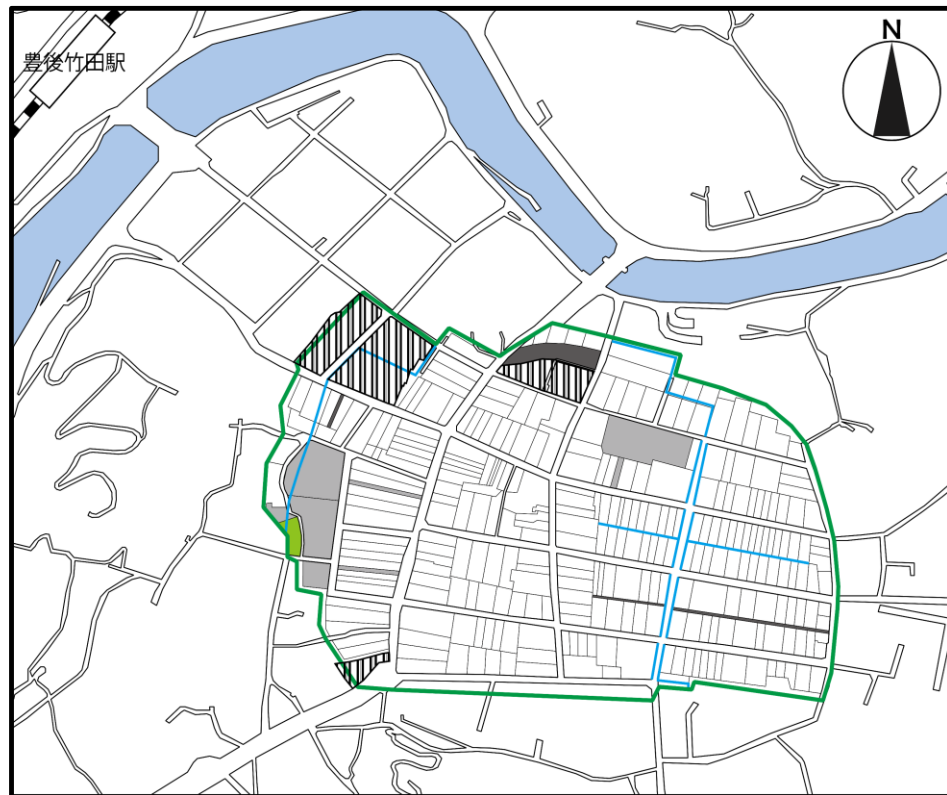


図1 旧竹田市街図(1647~1666年)

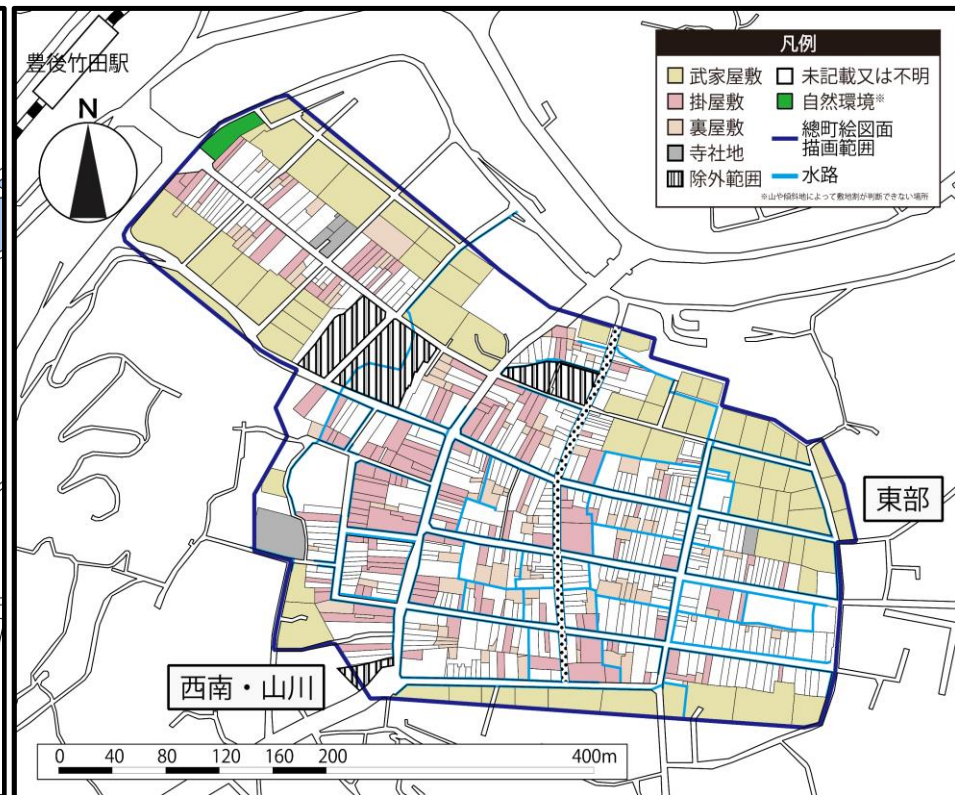


図2 總町繪図面(1869年)

年代Ⅰ (1647年~1666年)  
(正保4年~寛文6年)

年代Ⅱ (1869年)  
(明治2年)

# 3. 竹田城下町地区の細分化による地区の特性

年代Ⅰと年代Ⅱの敷地数と年代Ⅱの土地利用

表1 対象街区ごとの敷地数  
変化率と土地利用

敷地数が増加した計25街区に着目

街区番号	敷地数					
	年代Ⅰ	ⅠからⅡの敷地数変化率	年代Ⅱ	年代Ⅱ		
				武家屋敷数	掛屋敷数	裏屋敷数
(11)	8	125.0	10	0	5	1
(13)	1	400.0	4	4	0	0
(14)	8	175.0	14	0	4	5
(15)	11	118.2	13	0	8	0
(16)	2	550.0	11	0	1	1
(17)	6	300.0	18	0	14	2
(18)	8	300.0	24	0	8	1
(19)	4	350.0	14	2	5	2
(20)	2	200.0	4	0	1	0
(21)	5	480.0	24	1	4	5
(22)	15	226.7	34	0	11	6
(23)	16	243.8	39	0	9	7
(24)	8	250.0	20	0	3	4
(25)	20	285.0	57	0	12	10
(26)	16	293.8	47	0	6	12
(27)	1	300.0	3	3	0	0
(28)	14	150.0	21	12	2	0
(29)	11	427.3	47	2	4	6
(30)	24	200.0	48	0	8	7
(31)	18	272.2	49	0	4	7
(32)	8	212.5	17	0	7	3
(33)	1	400.0	4	4	0	0
(35)	32	121.9	39	4	2	2
(36)	24	158.3	38	0	2	4
(37)	15	180.0	27	4	4	2
(37)	15	180.0	27	4	4	2

街区番号	敷地数					
	年代Ⅰ	ⅠからⅡの敷地数変化率	年代Ⅱ	年代Ⅱ		
				武家屋敷数	掛屋敷数	裏屋敷数
(1)			2	2	0	0
(2)			9	2	2	1
(3)			15	1	4	2
(4)			1	1	0	0
(5)			17	2	2	3
(6)			20	3	3	6
(7)			1	1	0	0
(8)			1	1	0	0
(9)			22	3	5	3
(10)			16	4	2	3
(11)	8	125.0	10	0	5	1
(12)	4	100.0	4	1	0	0
(13)	1	400.0	4	4	0	0
(14)	8	175.0	14	0	4	5
(15)	11	118.2	13	0	8	0
(16)	2	550.0	11	0	1	1
(17)	6	300.0	18	0	14	2
(18)	8	300.0	24	0	8	1
(19)	4	350.0	14	2	5	2
(20)	2	200.0	4	0	1	0
(21)	5	480.0	24	1	4	5
(22)	15	226.7	34	0	11	6
(23)	16	243.8	39	0	9	7
(24)	8	250.0	20	0	3	4
(25)	20	285.0	57	0	12	10
(26)	16	293.8	47	0	6	12
(27)	1	300.0	3	3	0	0
(28)	14	150.0	21	12	2	0
(29)	11	427.3	47	2	4	6
(30)	24	200.0	48	0	8	7
(31)	18	272.2	49	0	4	7
(32)	8	212.5	17	0	7	3
(33)	1	400.0	4	4	0	0
(34)	18	16.7	3	9	0	0
(35)	32	121.9	39	4	2	2
(36)	24	158.3	38	0	2	4
(37)	15	180.0	27	4	4	2
(38)			3	3	6	0
計	300	-	740		142	105
計	300	-	633		134	87
avg	-	211	-	-	-	-

備考 ※…(1)~(37)までを対象とした集計  
 凡例 □…敷地数変化率が100%以上の街区

# 3. 竹田城下町地区の細分化による地区の特性

年代Ⅰと年代Ⅱの敷地数と年代Ⅱの土地利用

敷地数が増加した計25街区に着目

計22街区：掛屋敷と裏屋敷の記載

掛屋敷：商人が所有する貸家  
裏屋敷：通りに接道しない屋敷

年代ⅠからⅡにかけて有力な商人が既存の敷地を分筆したことで敷地数が増加した

街区番号	敷地数					
	年代Ⅰ	ⅠからⅡの敷地数変化率	年代Ⅱ	年代Ⅱ		
				武家屋敷数	掛屋敷数	裏屋敷数
⑪	8	125.0	10	0	5	1
⑬	1	400.0	4	4	0	0
⑭	8	175.0	14	0	4	5
⑮	11	118.2	13	0	8	0
⑯	2	550.0	11	0	1	1
⑰	6	300.0	18	0	14	2
⑱	8	300.0	24	0	8	1
⑲	4	350.0	14	2	5	2
⑳	2	200.0	4	0	1	0
㉑	5	480.0	24	1	4	5
㉒	15	226.7	34	0	11	6
㉓	16	243.8	39	0	9	7
㉔	8	250.0	20	0	3	4
㉕	20	285.0	57	0	12	10
㉖	16	293.8	47	0	6	12
㉗	1	300.0	3	3	0	0
㉘	14	150.0	21	12	2	0
㉙	11	427.3	47	2	4	6
㉚	24	200.0	48	0	8	7
㉛	18	272.2	49	0	4	7
㉜	8	212.5	17	0	7	3
㉝	1	400.0	4	4	0	0
㉞	32	121.9	39	4	2	2
㉟	24	158.3	38	0	2	4
㊱	15	180.0	27	4	4	2

表1 対象街区ごとの敷地数変化率と土地利用

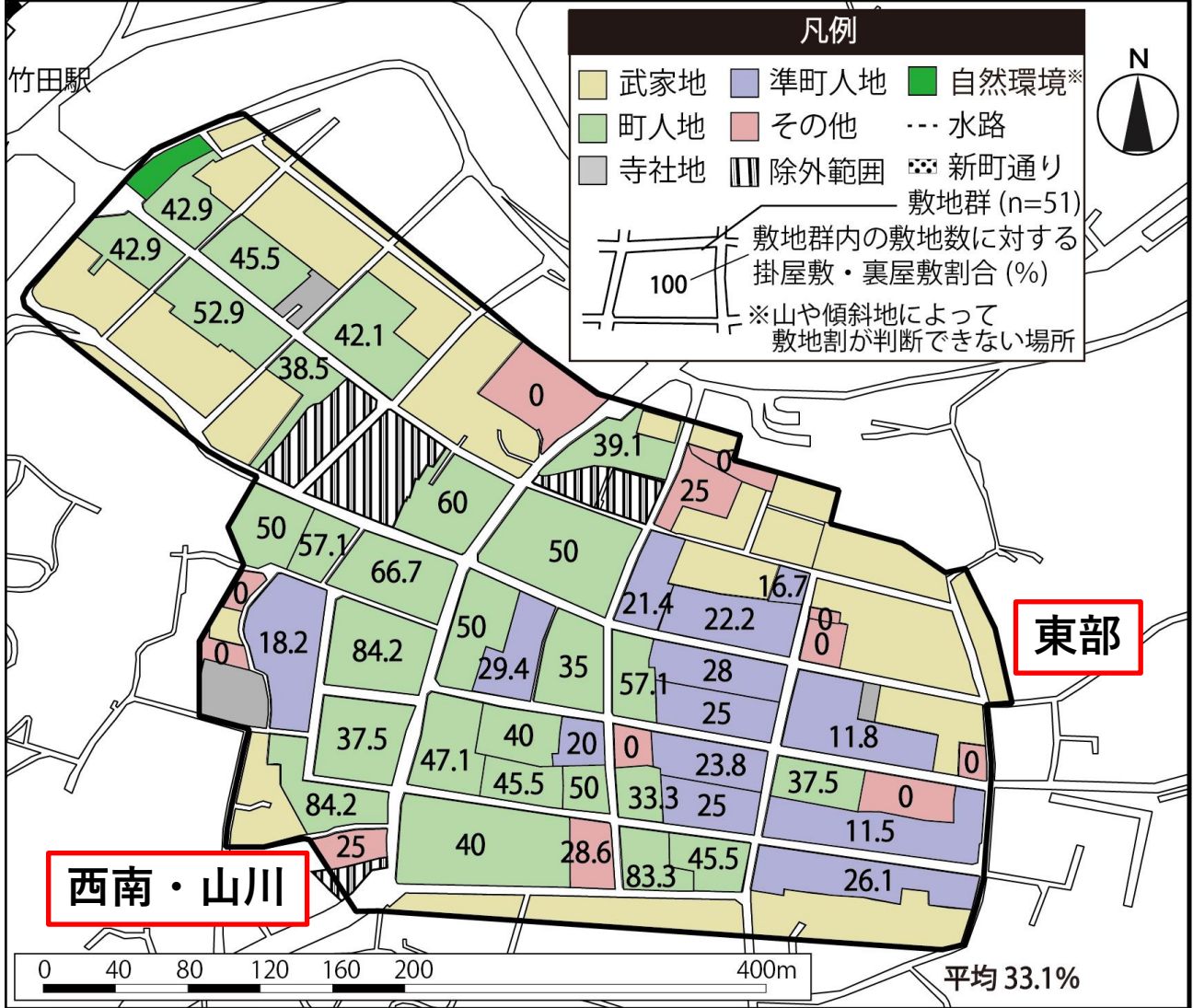
街区番号	敷地数					
	年代Ⅰ	ⅠからⅡの敷地数変化率	年代Ⅱ	年代Ⅱ		
				武家屋敷数	掛屋敷数	裏屋敷数
①			2	2	0	0
②			9	2	2	1
③			15	1	4	2
④			1	1	0	0
⑤			17	2	2	3
⑥			20	3	3	6
⑦			1	1	0	0
⑧			1	1	0	0
⑨			22	3	5	3
⑩			16	4	2	3
⑪	8	125.0	10	0	5	1
⑫	4	100.0	4	1	0	0
⑬	1	400.0	4	4	0	0
⑭	8	175.0	14	0	4	5
⑮	11	118.2	13	0	8	0
⑯	2	550.0	11	0	1	1
⑰	6	300.0	18	0	14	2
⑱	8	300.0	24	0	8	1
⑲	4	350.0	14	2	5	2
⑳	2	200.0	4	0	1	0
㉑	5	480.0	24	1	4	5
㉒	15	226.7	34	0	11	6
㉓	16	243.8	39	0	9	7
㉔	8	250.0	20	0	3	4
㉕	20	285.0	57	0	12	10
㉖	16	293.8	47	0	6	12
㉗	1	300.0	3	3	0	0
㉘	14	150.0	21	12	2	0
㉙	11	427.3	47	2	4	6
㉚	24	200.0	48	0	8	7
㉛	18	272.2	49	0	4	7
㉜	8	212.5	17	0	7	3
㉝	1	400.0	4	4	0	0
㉞	18	16.7	3	9	0	0
㉟	32	121.9	39	4	2	2
㊱	24	158.3	38	0	2	4
㊲	15	180.0	27	4	4	2
計	300	-	740		142	105
計	300	-	633		134	87

敷地数に対し、掛屋敷及び裏屋敷の占める割合が大きい場合、付近に有力な商家があったと推察でき、町人地に位置づけられる



# 3. 竹田城下町地区の細分化による地区の特性

## 竹田城下町地区の細分化



**武家地**  
武家屋敷の記載がある敷地

**寺社地**  
寺社の記載がある敷地

**町人地**  
敷地数に対する掛屋敷・裏屋敷の割合が地区全体の平均割合(33.1%)を上回る

**準町人地**  
町人地に区分されず、裏屋敷が存在する地区

→ 町人の屋敷の裏に建築  
▶ 町人の屋敷があった

**その他**  
裏屋敷が存在しない地区  
武家地(■)に隣接している  
▶ 武家所有の土地

図3 竹田城下町地区内の細分化したエリア

城下町形成の際、民家が点在していた地域は、水田地帯に比べて地盤が良好であったため、身分の高い**武家の屋敷**や**寺社**が建築されたことが考えられる。

### 3. 竹田城下町地区の細分化による地区の特性

現在の竹田城下町地区と細分化した地区の関係

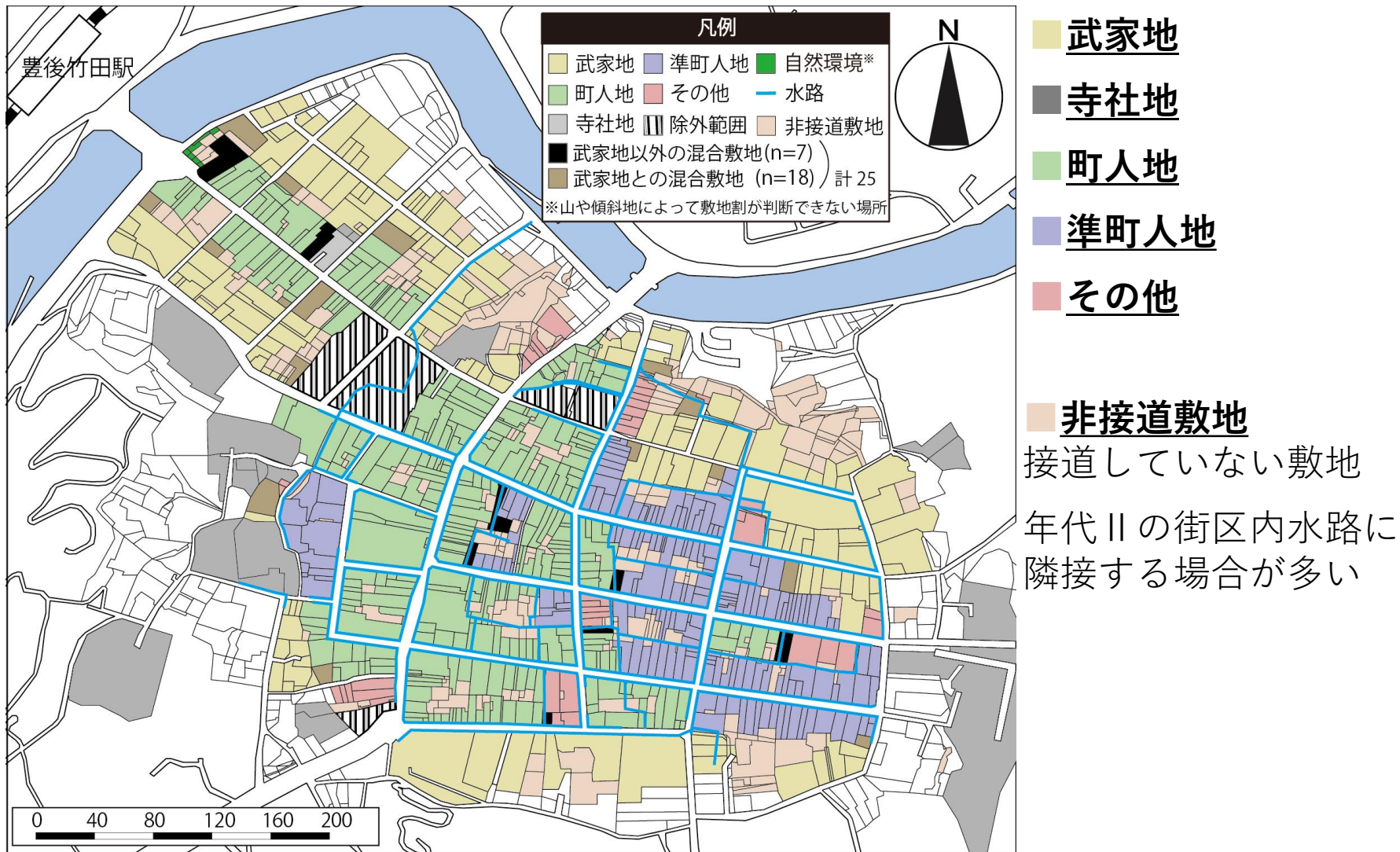


図4 現在の敷地における竹田城下町地区の細分化

竹田城下町地区内の水路は**利水や排水**として生活を確立させる役割があったことがわかる



# 4. 細分化した地区と建築物の意匠の関係

文化財に指定・登録されている7棟の建築物の意匠を調査

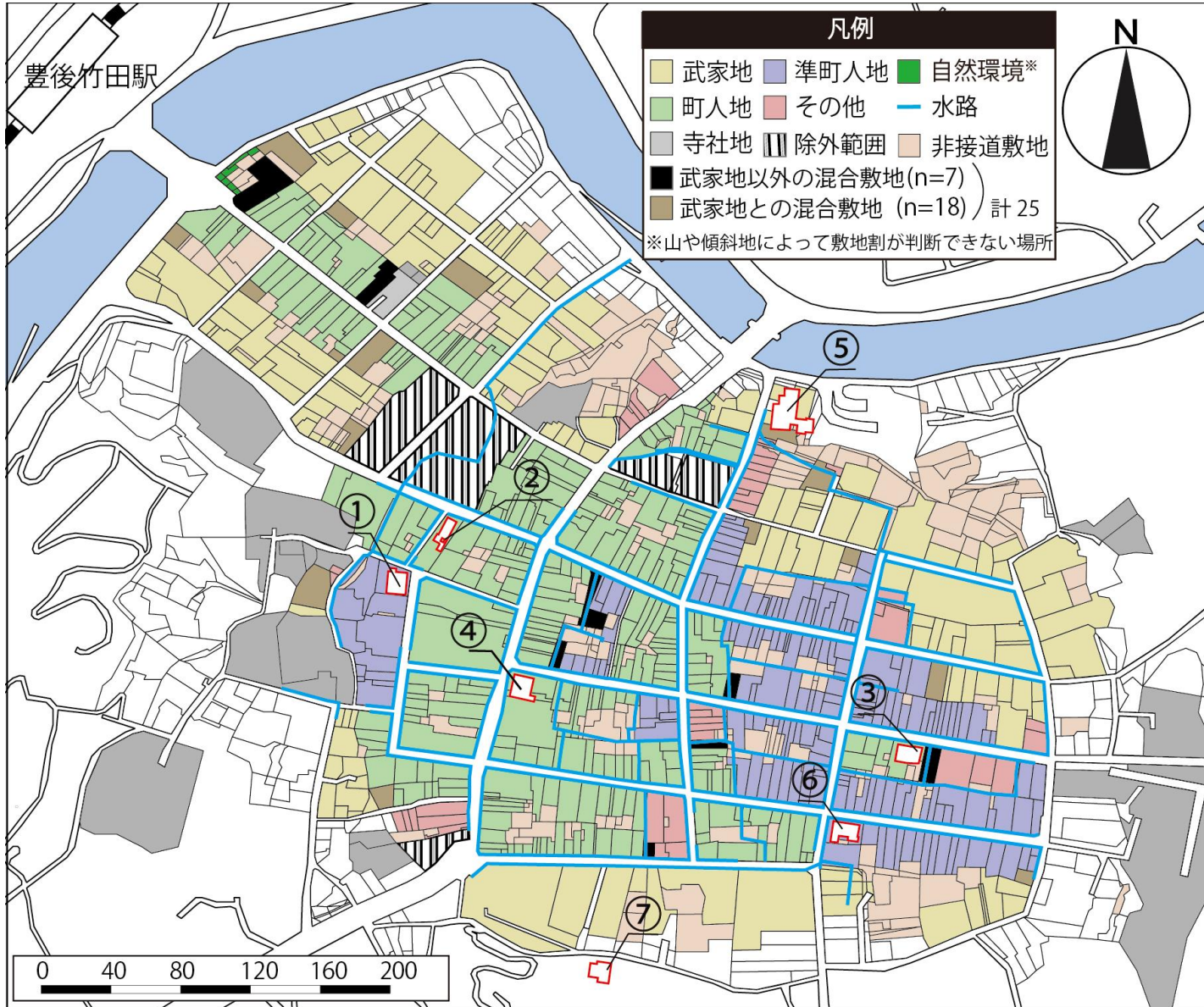


図5 竹田城下町内の文化財指定・登録の建築物



# 4. 細分化した地区と建築物の意匠の関係

文化財に指定・登録されている7棟の建築物の意匠を調査

表2 文化財に指定・登録されている建築物の意匠

調査項目	①旧竹田荘	②御客屋敷	③塩屋		④佐藤家住宅	⑤旧竹屋書店		⑥竹田市公民館竹田分館		⑦吉川家住宅			
建築物外観													
基本情報	立地する地区	-	準町人地		町人地	町人地		武家地		準町人地			
	建築物種別	武家屋敷	宿泊所		町屋	町屋		町屋		町屋			
	接する通り名	-	-		下本町通り	八幡横丁	田町通り	本町通り	田町通り	下町通り	稲葉川	上町通り	横町通り
	建築年	1790年(寛政2年)	1806年(文化3年)	1865年(元治2年)		1879年(明治12年)	1899年(明治32年)		1913~1920年(大正2~9)		1922年(大正11年)		
	文化財種別	国指定史跡	市指定史跡	国登録有形文化財		国指定有形文化財	国登録有形文化財		国指定有形文化財		国登録有形文化財		
	種類	-	遺跡	建造物		建造物	建造物		建造物		建造物		
	水路隣接	1647~1666 1869 現在	- × ×	○ ○	○ ○	- ○(暗渠)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
建築物形態	壁面形式	真壁	真壁	2階大壁 1階真壁	大壁	大壁	大壁	大壁	真壁	真壁	2階大壁 1階真壁	大壁	
	屋根形式	切妻平入り	入母屋平入り	入母屋妻入り	入母屋平入り	切妻平入り	切妻平入り	切妻妻入り	入母屋平入り	入母屋妻入り	入母屋平入り	入母屋妻入り	
	間口幅	4.4間	7.1間	3.5間	10.7間	9.0間	5.5間	8.3間	11.2間	7.5間	6.4間	8.9間	
	1階軒	高さ(mm)	2,485	3,231	2,732	2,732	2,480	2,630	2,441	2,903	2,133	2,746	2,746
		深さ(mm)	548	688	670	528	700	950	682	692	639	693	737
	2階軒	高さ(mm)	-	-	5,434	5,434	4,490	6,170	-	6,840	-	-	-
深さ(mm)		-	-	300	-	590	720	-	705	-	-	-	
素材	壁面	街路側	土	白漆喰	白漆喰	白漆喰	白漆喰	白漆喰	白漆喰+木	白漆喰+木	白漆喰	白漆喰	
		左側面	土	白漆喰	白漆喰	白漆喰	トタン	白漆喰	-	白漆喰+木	白漆喰+木	-	白漆喰
		右側面	土	白漆喰	白漆喰	-	白漆喰	白漆喰	白漆喰	白漆喰+木	白漆喰+木	白漆喰	-
	腰壁	木製板張り	無し	木製板張り	石	石	なまこ壁 +石	なまこ壁 +石	木製板張り +石	木製板張り	石	なまこ壁 +石	
詳細意匠	屋根	軒瓦意匠	一文字軒瓦	一文字軒瓦	文様軒瓦	一文字軒瓦	文様軒瓦	一文字軒瓦	万十軒瓦	万十軒瓦	-	一文字軒瓦	一文字軒瓦
	出入り口	形態	片引き戸	引き違い戸	引き違い戸	両引き戸 片引き戸	両引き戸 引き違い戸 両開き戸	両引き戸 引き違い戸	両引き戸	-	両引き戸	両引き戸 引き違い戸	両引き戸 片引き戸
		意匠	木製戸	木製戸 木製戸(枠のみ)	木製戸	木製格子戸	木製戸	木製戸 (枠のみ)	木製戸 (枠のみ)	-	木製戸 (枠のみ)	木製格子 戸袋	木製格子 戸袋
	窓	1階窓	木製サッシ 木製戸	木製格子	木製サッシ	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	茶系 アルミサッシ	鉄格子 付き窓	木製 サッシ	窓無し	茶系 アルミサッシ	鉄格子 付き窓
		2階窓	木製サッシ 木製戸	窓無し	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	木製格子	木製格子	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓
		1階窓廻り意匠	戸袋	戸袋	無し	瓦の庇	木製格子	無し	瓦の庇	木製格子	-	木製格子	瓦の庇
2階窓廻り意匠		木製手摺 戸袋/竹格子	-	瓦の庇	瓦の庇	無し	瓦の庇	瓦の庇	瓦の庇	無し	瓦の庇	瓦の庇	
【凡例】	■：調査項目に1つのみ ○：隣接している ×：隣接していない -：調査不可能												

# 4. 細分化した地区と建築物の意匠の関係

## 町人地に立地する③塩屋,④佐藤家住宅,⑤旧竹屋書店に注目

表2 文化財に指定・登録されている建築物の意匠

調査項目		①旧竹田荘	②御客屋敷	③塩屋	④佐藤家住宅	⑤旧竹屋書店	⑥竹田市公民館竹田分館	⑦吉川家住宅					
建築物外観													
立地する地区		-	準町人地	町人地	町人地	町人地	武家地	準町人地					
建築物種別		武家屋敷	宿泊所	町屋	町屋	町屋	町屋	町屋					
接する通り名		-	-	下本町通り   八幡横丁	田町通り	本町通り   田町通り	下町通り   稲葉川	上町通り   横町通り					
建築年		1790年(寛政2年)	1806年(文化3年)	1865年(元治2年)	1879年(明治12年)	1899年(明治32年)	1913~1920年(大正2~9)	1922年(大正11年)					
詳細意匠	屋根	軒瓦意匠	一文字軒瓦	一文字軒瓦	文様軒瓦	一文字軒瓦	万十軒瓦	万十軒瓦	-	一文字軒瓦	一文字軒瓦		
	出入口	形態	片引き戸	引き違い戸	引き違い戸	両引き戸 片引き戸	両引き戸 引き違い戸	両引き戸	両引き戸	-	両引き戸	両引き戸 引き違い戸	両引き戸 片引き戸
		意匠	木製戸	木製戸 木製戸(枠のみ)	木製戸	木製格子戸	木製戸	木製戸 (枠のみ)	木製戸 (枠のみ)	-	木製戸 (枠のみ)	木製格子戸袋	木製格子戸袋
	窓	1階窓	木製サッシ 木製戸	木製格子	木製サッシ	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	茶系 アルミサッシ	鉄格子 付き窓	木製 サッシ	窓無し	茶系 アルミサッシ	鉄格子 付き窓
		2階窓	木製サッシ 木製戸	窓無し	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓	木製格子	木製格子	鉄格子 付き窓	鉄格子 付き窓

2階窓 : 蔵の窓として使用される鉄格子付き窓

出入口 : 木製の両引き戸

▶ 開口部を小さくすることで防火性を高める蔵の構造に反する

店舗兼住宅としての使用を目的とする見世蔵

ガイドライン 鉄格子付き窓の記載はない



図6 鉄格子付き窓

鉄格子付き窓は、町人地の重要な意匠の特徴であるといえる

# 4. 細分化した地区と建築物の意匠の関係

真壁造りである①旧竹田荘,②御客屋敷,⑥竹田市公民館竹田分館に注目

表2 文化財に指定・登録されている建築物の意匠

調査項目	①旧竹田荘	②御客屋敷	③塩屋	④佐藤家住宅	⑤旧竹屋書店	⑥竹田市公民館竹田分館	⑦吉川家住宅
建築物外観							
立地する地区	-	準町人地	町人地	町人地	町人地	武家地	準町人地
建築物種別	武家屋敷	宿泊所	町屋	町屋	町屋	町屋	町屋
接する通り名	-	-	下本町通り 八幡横丁	田町通り	本町通り 田町通り	下町通り 稲葉川	上町通り 横町通り
建築年	1790年(寛政2年)	1806年(文化3年)	1865年(元治2年)	1879年(明治12年)	1899年(明治32年)	1913~1920年(大正2~9)	1922年(大正11年)
文化財種別	国指定史跡	市指定史跡	国登録有形文化財	国指定有形文化財	国登録有形文化財	国指定有形文化財	国登録有形文化財
・種類	・遺跡	・史跡	・建造物	・建造物	・建造物	・建造物	・建造物
水路隣接	1647~1666	-	×	○	○	○	○
	1869	-	×	○	○	○	○
	現在	×	○(開渠)	○(暗渠)	○(暗渠)	○(暗渠)	○(暗渠)
壁面形式	真壁	真壁	2階大壁 1階真壁	大壁	大壁	大壁	大壁

①旧竹田荘：武家屋敷<sup>2)</sup>

②御客屋敷：他藩からの武士の宿泊所<sup>3)</sup>

⑥竹田市公民館竹田分館：武家地に立地



町屋と比べて格式が高い

ガイドライン すべての町屋型建築の1階部分を真壁造りにする整備方針

竹田城下町地区では、町屋と比べて格式が高い建築物に真壁造りが使用されていることが分かる

2)竹田市HP(2021.5)「国指定史跡「旧竹田荘」」  
 URL:[https://www.city.taketa.oita.jp/bunka\\_rekishi\\_kanko/yugakukan/3567.html](https://www.city.taketa.oita.jp/bunka_rekishi_kanko/yugakukan/3567.html)(2024年2月7日最終閲覧)  
 3)竹田市HP(2023.11)「市指定「御客屋敷」」  
 URL:[https://www.city.taketa.oita.jp/bunka\\_rekishi\\_kanko/bunkazai/4806.html](https://www.city.taketa.oita.jp/bunka_rekishi_kanko/bunkazai/4806.html)(2024年2月7日最終閲覧)



# 5. 総括

## ①竹田城下町地区の歴史的背景

- ・現在の竹田城下町地区を8つに**細分化**
- ▶非接道敷地の分布から同地区内の水路は**利水や排水**として生活を確立させる役割

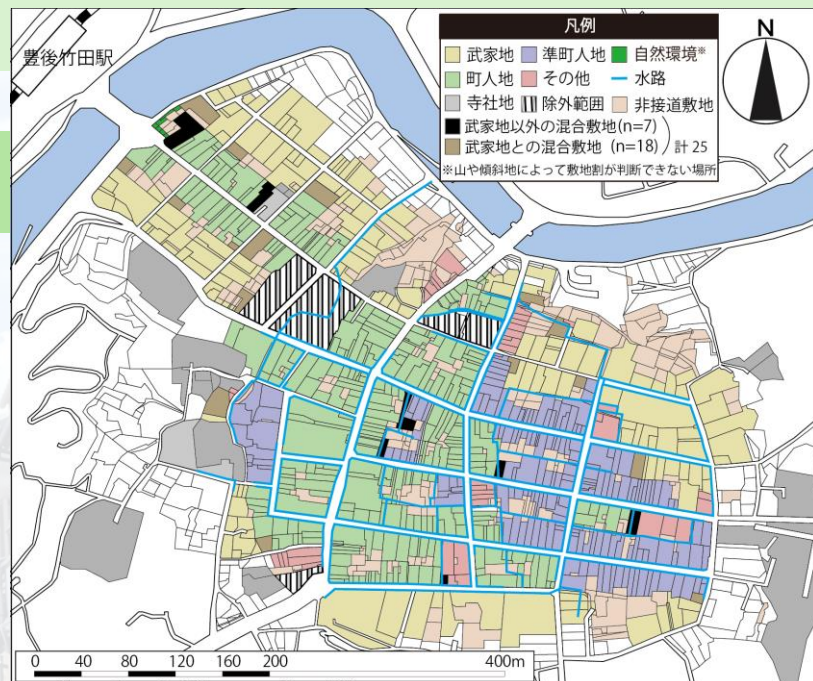


図4 現在の敷地における竹田城下町地区内の細分化

## ②歴史的背景と建築物の意匠の関係

既存のガイドラインには記載がないが

- ・鉄格子付き窓は、町人地の重要な意匠の特徴である
- ・町屋と比べて格式が高い建築物の壁面形式に真壁造りが使用されている



図6 鉄格子付き窓

## 今後の課題

- ・江戸・明治・大正時代以外に建築された建築物の調査
- ・細分化した地区それぞれにおける年代ごとの意匠の傾向を明らかにする